

東北復興 PSW にゆうす

被災地が復興するよりずっと早く、人々の記憶は薄れてしまうでしょう。荒野と化したその地には、あった筈の日常は戻って来ていません。県外に避難したままに故郷に戻れない人たちは、先行きに戸惑うばかりの日々が続いています。今、私たちは何が出来るのでしょうか。「常に心に留め置くこと」「現地の仲間の歩みと人の暮らしに心を馳せ続け、力添えること」・・・この度、「支えるひとを支える募金の活用」を呼びかけることといたしました。構成員からお寄せいただいた募金を、復興支援に寄与する全国の県協会や構成員グループによる活動にもご活用いただきたいと思います。ひとりの「私に何が出来るか」がもうひとりの溢れる想いと活動へと繋がって、日本列島の何処にあっても隔たりのない、持てる力を結集する牽引役としての復興支援本部でありたいと思います。奮ってご応募下さい。(本部長代行 小関清之)

「群馬・神奈川での支援活動」について

震災により、避難を余儀なくされた方々は今どうしているのでしょうか。今回は被災地から離れた地域で暮らす方々への支援活動についてお知らせします。

ありがとう復興支援



今回もたっぷり
増頁号！！

群馬県支部・災害対策委員（県災害支援委員長） 相談支援事業所ゆりのき 長坂勝利

東日本大震災発生から3年弱が経ちますが、今回貴重な機会を頂いたのでこれ迄に県協会が行なった災害支援活動をご報告致します。群馬は被災地から遠くも近くもない距離ですので主に福島県から多くの方が避難し、現在でも約1,700人が群馬で避難生活を継続しています。私達は震災及び原発事故が発生後「何かしなければ」「けど何をすれば良いのか」と浮き足立つ状況の中、3月末に群馬司法書士会と連携して群馬県内避難所への巡回支援から始めました。「何人の会員が動いてくれるのか？」との不安を抱きつつ「今週末に避難所支援に行ける人は？」とMLで呼び掛けると、30人以上から反応がありました。皆も「自分に出来る事は何か？」と思っていたのです。“群馬こころのケアチーム”と名乗って避難所へ入ってはみたが話を聴くことしか出来ず、津波被害や爆発の恐怖には十分な共感が出来ず自分の無力さを痛感しました。避難所内では自らも避難者でありながら支援に奮闘する保健師・看護師・行政職員がいました。私達に出来る事は、“支援者支援だ”と立ち返り、現地支援者の支援に舵をきりました。避難所内には精神科既往歴のある方やメンタルヘルスケアの必要な方が多くおり、その方々への関わりの要請が増えていきました。支援者支援を通して初めて精神保健福祉士のアイデンティティを回復出来ました。

半年後、県内避難所は閉鎖され、支援の対象は避難所から県内各地に分散していった避難者になりました。分散した避難者の孤立を防ぐ為、県内の各支援団体と一緒に“避難者の集い”を開催し避難者同士の交流の場を提供しました。そして、昨年10月に県内の職能団体、NPO法人、ボランティア団体が集まり避難者の暮らしを守る目的で「ぐんま暮らし応援会」を設立しました。応援会の活動は、各地での集い開催に加え、避難者数名を訪問支援員として雇用し、集いに出て来れない苦難を抱える避難者への訪問活動が中心です。現在の県協会の活動は、集いへの会員派遣と訪問支援員の精神面への支援を月2回行なっています。訪問活動が活発化するとメンタルヘルス問題を抱えた避難者が顕在化するので、会員による個別面談も増えてます。支援活動で得られる物もあり、多く会員が関わる事で組織強化となり、他職能団体や支援団体との交流・連携が生まれ新たなネットワークを構築出来ました。今後も精神保健福祉士の専門性を生かし、幅広いチームでの支援を続けて行きます。

神奈川県支部 福井記念病院 三瓶 英美

発災時、会津若松出身の私は、地元に戻れないもどかしさと「私が今、神奈川で出来ることをしたい」という想いの中、職場における被災地支援などを行ってまいりました。そんな中、「福島出身なら、方言が活かせるかも」と神奈川県精神保健福祉士協会（以下、県協会）より声がかかり、透析施設MSW研究会ソクラテスプロジェクトを中心として、県社会福祉士会、県医療社会事業協会、県介護支援専門員協会、そして県協会など様々な職能団体や市民活動団体、当事者団体と協働プロジェクト『東日本大震災被災者支援団体連絡会 in かながわ』の活動への参加が始まりました。支援者の中には同郷のソーシャルワーカーも多く、わたし自身、県内に残り同じ思いで活動している仲間との出会いにとっても励まされています。

被災者支援のための各種制度概要を、使いやすい資源マップ冊子に作り替る作業から始まり、福島県や宮城県から神奈川県内に避難してきている方々への訪問活動『かながわ避難者見守り隊』とボランティアグループ『寄り添い隊』への専門的助言やサポート、また神奈川県内へ避難してきている方々の「同郷の人や同じ境遇の避難者同士で会いたい」「話したい」「地元の情報が知りたい」という想いから「場」を設けることになった『寄り合い処 in かながわ』の運営を手伝っています。『寄り合い処』は2011年10月にスタートし、毎月1回開催しています。挽きたて珈琲や福島・神奈川の銘菓などを用意し、方言で自由に語り合う時間、各専門職を配置した相談コーナー、福島・宮城・岩手の各地域広報誌の自由閲覧コーナーの設置などを行っています。

支援活動から丸2年が経過して、仮住いの住環境に落ち着き始めると同時に、保障の継続性への不安、地元へ帰るのか、神奈川県内に留まるのか、家族間での意見や感情のすれ違い、先への閉塞感、ストレスによる不眠や体調不良、神奈川の地域の中での孤立感、さまざまな思いに触れることができました。時間は経ても、なかなか次の一歩が見えず、またそれぞれの背景（個別性）が浮き彫りになってきており、今後も県外避難者への多様な個別的状況への対応が必要であると感じています。ご紹介できた活動はほんの一部ですが、支援を必要とされている方がいる限り、「よく来らったなし（ようこそ、おいで下さいましたね。）」と声をかけ、その思いに耳を傾け神奈川県内の仲間たちと活動を続けていこうと思っています。



○12/22 (日) 10:00~

『サンタが町にやってくる~岩手★おおふなと★大作戦~』

○12/6 (金) ~12/31 (火)

2013 SENDA | 光のページェント

○12/29 (日)

南三陸町 - 志津川湾おすばでまつり復興市

○11/30 (金) ~2/14 (木)

第8回ビックツリーページェント・フェスタ IN KORIYAMA

☆12/18 (水) 19:30~

NHK特集ドラマ「かつお」

現地取材し続け、復興を目指す人々の歩みを数多くのドキュメンタリーで伝えてきたNHK仙台放送局が、初めて被災地の人たちの「ドラマ」を制作

前回紹介しきれなかった四国・中国ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 徳島(すだちの花) 島根県(牡丹) 高知県(やまもも)

☆ 徳島県支部 小谷尚子



東日本大震災により被災された方々に心より
お見舞い申し上げます。想像をはるかに超える大
震災で、私は、ただただ呆然とニュースを見るこ
としかできませんでした。あれから少しずつとき
が流れましたが、見聞きするテレビや新聞の情
報、また被災地を訪れた人たちの話は、震災の大
きさ自体もさることながら、復興していくことが
一筋縄ではいかないことも浮き彫りにさせるも
のでした。そんな中でも、被災地の方たちの未来
を語る姿や笑顔にかえて、私のほうが元気づけ
られました。四国の地から復興を願い、被災地の
ことを忘れず、私のできることを考え続けていき
たいと思っています。

(*^.*^*) 全国各地から頂戴しております温かなメッセージを
皆様と分かち合いたく、なるべく速やかにお伝えして行きたく
と思っています。しかしながら、この「東北復興 PSW にゆうす」
発行のタイミングと必ずしも一致しない場合もあります。ご理解
をお願いいたします。

☆ 高知県支部 檜垣千穂



高知は決して他人事ではなく、来る震災に備える必要あり！東北の皆さんの経験を活かしていくことに務めたいと思います。尊い命が失われたこと、二度と還っては来ないからこそ、高知で今できることを大事にしていきたいと思っています。

♥～復興支援活動募金報告～♥

296,528 円 (H25 年 4 月～H25 年 10 月末日現在)

皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部への FAX もしくは E-mail にてお願いいたします。

E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

☆ 島根県支部 副会長 高尾由美子



東日本大震災から二年が経過しましたが、3月
11 日前後の震災関連の番組を見ながら、改めてそ
の被害の甚大さを実感しています。私は、震災後
4 ヶ月経過した時の石巻、そしてその後も何回か
現地に行って感じることは、瓦礫処理は進んでき
ても、人の心は癒されない現実があるということ
です。今年の震災についてのアンケートで、「一
年目より二年目の方が、将来への不安、失望が増
している」という結果は深刻です。日本精神神経
科診療所協会が立ち上げた石巻駅前の「からころ
ステーション」では震災版アウトリーチ支援、来
所相談、電話相談が 365 日対応されています。現
地に行って感じるものは大きいけれど、それを自
分がどう生かせるのかというのは難しいところ
です。本当は、風化させないためにどうすべきか、
それをどう繋ぐかもっとみんなで考えなければ
ならないと思っていますが・・・
一月に福島県相馬市から出雲へ研修にこられた
方が、『西日本に来て、「東日本と違い震災記事も
なく、このまま忘れられるのではないかと不安
になった、福島にも来てほしい、現地を見てほし
い』と言われたのが心に響きました。遠く離れて
いる私たちにも出来ることがあるはず。まずは
現実を知ることからが大切です。そしてそれぞ
れの立場で出来ることを考え、決して風化させて
はいけないと思っています。

☎復興支援本部「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行が

お応えします。お寄せいただいた声は、
復興支援に生かしてまいります

第 8 号 2013 年 11 月 15 日発行

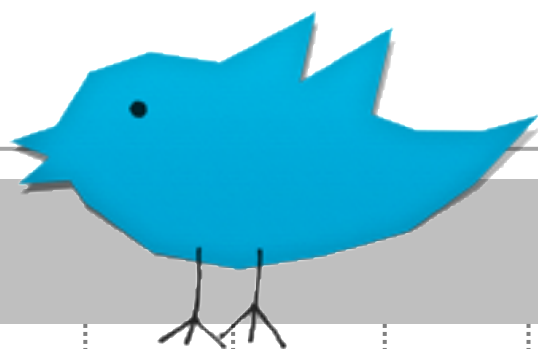
発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大京町 23-3 四谷オーキッドビル 7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>

復興支援活動を応援します

構成員等の皆さまから寄せられた東日本大震災復興支援活動募金（「支えるひとを支える募金」）を活用して、各都道府県精神保健福祉士協会等による復興支援活動の経費を助成することとなりました



～東日本大震災からの復興のため～

被災された現地県協会の支援活動、現地との交流により取り組む全国各地の県協会や構成員によるグループ活動を対象に助成金をご活用いただけます＼(^0^)/

応募についての詳細は、本協会web「東日本大震災復興支援活動助成金交付要綱」をご覧ください。

～全国各地との分かち合いを～

この交付金によって行った支援活動や交流会等々の内容は、本協会webや「東北復興PSWにゆうす」等々を通じて、全国の構成員に向けて、随時、お伝えしてまいります>^_^<